

明治六年

(二月)

(二月一日)

(十二月) 三日 晴。

此日ヲ明治六癸酉年一月一日ト相改候。

元朝ノ御祝規式モ例年ノ通り相濟候。此日ハ商店相休候。

(二月) 二日 晴。

朝、試筆モ相濟候。商店初売大鬧ケ敷候。

(二月) 三日 晴。

石山様え花蹊年始之御礼ニ行、亦興正寺え行。此席、專正寺、相国寺和尚モ同席ニテ、年酒ニテ夕景ニ及フ。此夕、渡辺重石丸来殿、御年酒ニテ大賑々シク候。

(二月) 四日 大雪。

綾小家え年礼ニ行。

(二月) 五日

御鏡開モ相濟候。渡辺来殿、[講釈聞](#)。

\*講釈(講釈)

(二月) 六日

(コノ日、記事ナシ)

(二月) 七日 晴。

石山殿年酒ニテ花蹊參殿。御客伏原父子、三条西正五位さま、東園、冷泉、沢三位、同従四位、

同長丸也。千世滝モ同席也。夜十二字、帰殿也。渡辺来殿ス。花山帰宅ス。

(二月) 八日 晴。

午後より花蹊、三条様え参殿ス。酒肴出ル。夫より万里小路様え参殿ス。御膳出ル。日暮、三条西様え参殿ス。若殿さまト御咄しの中、大殿様御帰殿ニテ御酒肴御膳迄呼レル。夜十字頃、帰殿ス。此日、千世滝、石山家え行。

(二月) 九日 晴。

夕景、花山、巴女参殿ス。夜、渡辺参殿ス。

(二月) 十日 晴。

御年酒ニテ三条西様御招候処、御用ニテ不参、石山様モ御所旁ニテ不参、綾小路正二位御子孫、外二次之人三人参られ候。石川義則、菊姫さま、たか也。巴女浄瑠璃相語り候。夜十二字頃迄也。

\*浄瑠璃(浄瑠璃)

(二月) 十一日 風。

万里小路伴姫さま御書御入門トテ御肴被下候。夜、渡辺来、[講釈](#)聞。

\*講釈(講釈)

(二月) 十二日 晴。

巴女、沢家え行、一宿。井上氏、明十三日出立之ヨシニテ、花蹊此夜暇乞ニ行。他出ニテ不逢。夕景より良姫さま、千世滝連テ石山家え成らせられ候。

(二月) 十三日 雪。

朝七字より良姫さま女学校え御入門也。重敬、[花蹊御共](#)いたし候。御帰殿三字也。

\*御共(御供)

(二月) 十四日 晴。

巴女、沢家より帰殿候。夜、渡辺来。巴女浄瑠璃聞。

\*浄瑠璃(浄瑠璃)

(二月) 十五日 晴。

此日、三条様侍従丸様、旧冬西洋ヨリ御帰朝ニテ此日御元服也。故ニ花蹊召サレ候故、参殿ス。御客三条西殿御父子、親規町三条殿、園池父子、戸田父子也。十一字過退席。花蹊一宿ス。花蹊、熊谷直彦席画ス。

\*親規町(正親町)

(二月) 十六日 晴。

後宴、御客徳大寺御夫婦、山内、阿野、細川峰君様、外ニ老女ト也。夜十一字頃、退座也。花蹊席画ス。又一宿。此夜、渡辺来ル。

(二月) 十七日 晴。

一字頃、帰殿ス。此夜、渡辺来ル。講訳聞。花蹊、石山家え稽古ニ行、夜七字頃帰殿候。此日、三条西様より御菓子一箱被下候。

\*講訳(講釈)

(二月) 十八日 晴。

終日揮毫ス。

(二月) 十九日 雪。

花蹊、画室転ス。渡辺不参。

(二月) 二十日 晴。

終日揮毫ス。

(二月) 二十一日 晴。

終日揮毫ス。此日、三条西殿より使来。御菓子重箱拝領ス。渡辺来宿。此日、牛込山片菊女、

悴友治郎連テ参殿ス。一宿。此日、井上市兵衛より書帖来、二十三日出立告来ル也。

(二月) 二十二日 晴。

花蹊面躰ニ種物出来ル。依テ放棄。菊女、十一字頃帰り候也。此夜、渡边来宿。伏原家薄井武彦画頼ニ来ル。

\*種物(腫物)

(二月) 二十三日 晴。

三条西家水野画頼ニ来ル。長谷川十右衛門、十二枚屏風頼ニ来ル。渡边楽之助カンバン頼ニ来ル。三条殿より使者来ル。

(二月) 二十四日 晴。

終日揮毫ス。夜、渡边来ル。一宿。

(二月) 二十五日 晴。

終日揮毫ス。渡边楽之助より頼みのカンバン認ル。二組也。此日ヨリ水島齋、御殿御茶室より表迄拝借致され候也。

(二月) 二十六日 晴。

終日揮毫ス。此日、売墨者土族林元之輔元田中甲斐之輔也来、色紙二枚相頼候。

\*売墨者(売卜者)

(二月) 二十七日 晴。

終日揮毫。此夜、渡边先生来宿。

(二月) 二十八日 晴。

終日揮毫ス。御餅ツキ也。愛治郎来、又帰。

(二月) 二十九日 晴。

神武天皇御神事也。終日揮毫ス。夜、祝酒。愛治郎来宿。此日、水島来、良姫様御対面也。

(二月) 三十日 晴。

終日揮毫。

(二月) 三十一日 晴。

朝、松本楓湖門人来。外務省ヨリ画帖頼ニ来ル。水島均来。終日揮毫。高林二峰、同五峰、青山脩治郎来。花蹊、石山家え稽古ニ行。夜、渡辺先生来、**講訳**、**論講**有。此夜四更半也、聞鶏鳴。此日、西洋藤坪君より報知有、仏国巴里より十一月二日夜認御状也。十月二十八日十字頃、マルセールえ御到着也。夫ヨリ同三十日十字、乗蒸気車、仏ノ巴里迄、十一月朔日朝五字半御着也。七百里ノ道路一昼夜ニ到着、**実速也**事也。先々はニ御滞留之御様子也。

\*講訳(講釈) \*論講(輪講) \*也(成)

(二月)

二月朔(日) 晴。

朝、京師典ヨリ書状、一月廿八日発也。朝、東本願寺**連子**田中甲斐之助来。暫時和茶。此日、松齋元旗下朝倉藤十郎、連月一日小集相催候ニ付、依私誘引ニ来リ候。昼後ヨリ父様ト花蹊同道ニテ牛込寿楼え行。盛会也。四字頃迄遊フ。夫ヨリ牛込北山伏町平松家え行。御他出ニ付不逢。夫ヨリ四ツ谷角上屋敷庭見ニ行。夕景、帰殿候也。此日、京師吉田塾頭増山来ル。

\*連子(連枝)

(二月) 二日 晴。

終日揮毫ス。渡辺先生来宿。此日、絹地認ニカ、ル。**区帳**役人二輩来ル。

\*区帳(区庁)

(二月) 三日 晴、風。

終日揮毫ス。節分豆食。京師典え書状出ス。増山来ル。

(二月) 四日 晴。

此日朝五ツ時半、渡辺先生来、[講釈](#)聞、八ツ時半迄也。夫ヨリ揮毫ス。

\*講釈 (講釈)

(二月) 五日 晴。

終日揮毫ス。

(二月) 六日 晴。

終日揮毫ス。

(二月) 七日 晴。

終日揮毫ス。綾小路竹窓さま成らせられ候。花蹊、今戸細川ヨリ九日綾小路さまト同道可致様御頼みに相成候趣仰せられ候。渡辺先生、昼御出也。[講釈](#)聞。

\*講釈 (講釈)

(二月) 八日 晴。

終日揮毫ス。松本楓湖ヨリ頼みの画帖絹本二枚落製。此日、大坂上田長治郎十日帰坂之出帆之よしニテ暇乞ニ来り候。

(二月) 九日 風、晴。

午後二字ヨリ綾小路有長様、同侍従殿、花蹊人力車ニテ今戸え細川氏え行。此時、客三条様、越前春嶽氏、田安夫婦、浜町細川細君也。書画席上ス。青木南溟、宗達御取持也。此席十一字頃也。夫ヨリ細川手船ニテ帰り候。和泉橋ヨリ上リ人力車ニテ十二字頃帰殿候。

(二月) 十日 晴。

昼後ヨリ綾小路さま別荘神田え行、茶室御襖二枚認ル。夜八字帰殿也。此日、三条西水野来ル。此日、万里小路家より御使来。当十二日、大宮御所え花蹊被召候故、第十二字昇殿可致様御沙汰也。

(二月) 十一日 晴。夜雪、暫シテ止。

終日揮毫ス。此日、沢浅野一周忌ニテ千代滝行候。此日、富田二輩来。此朝、渡辺先生御出也。先生も十二日御用召之様子也。

(二月) 十二日 晴。

朝十一字頃、人力車ニテ赤坂大宮御所へ昇殿ス。御昼飯戴、夫ヨリ皇太后宮御前ニテ花蹊一人席書画数十枚奉入御覽候。此日ハ宮内太夫万里小路様、三条西様、阿野、八田、福波、八十子も召レ候。終日風流、大興不過之候。此時、結構く成御品々、御目録等拝領ス。又美料理戴、冥加至極不過之候。七時退出ス。夫ヨリ人力車ニテ帰殿ス。夜八字也。夫ヨリ持帰り候御料理ニテ御内一統御祝酒ニテ御悦候也。此時、三条西季知卿成らせられ候。此日、西京ヨリ紙包来着。

(二月) 十三日 晴。

大宮御所浜荻典侍様へ文出ス。亦万里様へ御印鑑返上ス。此日、長谷川来候間張付ニカゝル。夜九字、渡辺先生御出、一宿。

(二月) 十四日 晴。

西京典へ文出ス。島屋えも文出ス。昼後、渡辺先生御出、講釈聞。水島倅入学ス。

\*講釈(講釈)

(二月) 十五日 晴、烈風。

此日、大風ニテ諸道具類不残かた付ル。此日、島屋、巴女来宿。此日、脇屋来。

(二月) 十六日 晴。

終日画。ユウストリヤ博覧会ノ画帖、絹本四枚認ル。夜、浄瑠璃聞。巴女宿。

\*浄瑠璃(浄瑠璃)

(二月) 十七日 晴。

終日揮毫ス。早朝、松本楓湖方え絹本画帖差出し候。

(二月) 十八日 晴。

終日揮毫ス。

(二月) 十九日 晴。

千浪初会ニテ父様行レ候。

(二月) 二十日 晴、暖風。

昼後ヨリ良姫様、花蹊、万里小路家え成らせられ候。五字、御帰殿也。此夜、[数気屋](#)河岸出火。浪花井上氏え書状出ス。此日、脇屋義一より軸五幅持来り候。

\*数気屋(数寄屋)

(二月) 二十一日 晴、暖気。

終日揮毫ス。石山家え稽古二行、風早様二逢。

(二月) 二十二日 巳 晴。

此日、二ノ午ノ積リニテ[受持神祭](#)ル。綾小路様御出也。脇屋義一來。書出来。蜂屋丹鶴、渡辺樂之介来。船引来。はる事、惣身ウキ来候テ通シモ少ク故、船引モ大井ニ心配いたし、此様子ニテハ子モ流産モ難計由申居り候。巴女来。此夜、[浄瑠璃](#)語ル。一宿。治事、此夜通シモ有候テ大井ニ気分モヨク候。此日、花蹊居間修復成就、庭モ出来、横門開初ル。

\*受持神祭(保食神祭) \*浄瑠璃(浄瑠璃)

(二月) 二十三日 丙午 雨、風、暫止。

治事、暁前ヨリ少々腹痛ニテ漸々ヒドク相成、夫ヨリ出産ノ用意スル。トリ上ゲ嫗モ来、船引モ来。朝五ツ時、女子出産ス。実ニ安産トハ此事也。月不足ニハ候得共、至テ大丈夫也。先々一同大安心也。早速西京典え申遣シ候。三国幽眠来。三条西水野来。此夜徹夜。

(二月) 二十四日 丁未 晴、夜雪。

書出来。終日画ク。夕、加藤両人来。徹夜スル。



(二月) 二十五日 戊申 晴。

渡辺先生来。トリ上嫗来。花蹊放棄。此日、常徳院殿十七回忌ニ付、ムシ物配ル。此夜モ徹夜ス。

\*ムシ物(蒸シ物)

(二月) 二十六日 雨、又雪、風。

終日イソガシク、夜徹夜ス。赤子不快ニテシヤクリいたし候故、ひとく心配シテ船引呼ニ遣し候。同人モ不快ニ(テ)不参候。

(二月) 二十七日 雨風。

朝五ツ時、赤子死去いたし候。実に残念難申尽候。此日午後三字頃、父様、花蹊、山本氏人力車ニテ赤子連テ浅草法ユウ寺え葬候。日暮後、帰殿いたし候也。

\*法ユウ寺(法融寺)

(二月) 二十八日

(コノ日、記事ナシ)

(三月)

三月一日

(コノ日、記事ナシ)

(三月二日〜十五日、日記ナシ)

(三月) 十六日 晴。

高橋五峰書画会ニテ石山様、摂斎、花蹊、花山、鉄也、岩田茂穂、京永ト同道ニテ十二字頃より出会ス。終日大楽、実盛会也。午後四字後より退座ス。五字頃、帰殿ス。石山様、父さま、

御道寄ニテ夜十一字頃帰られ候。此日、独乙殿様より御報知有。御写真モ来ル。外ニ德太寺殿、西四辻殿、堤亀丸殿、目賀多行の御文モ有。

\*高橋五峰(高林五峰) \*德太寺殿(德大寺殿)

(三月) 十七日

早々西四辻殿え独乙ヨリの文持参ス。西四辻殿薩州え勅使の御留主故、御書は慥ニ差上候。写真ハ又々持帰り候。

(三月十八日〜二十五日、日記ナシ)

(三月) 二十六日 晴。

昼十二頃、三条殿長家信受院さまより出火ニテ、花蹊見舞ニ行、御手伝スル。一宿。御長屋十  
四軒焼ル。此日、外二三所モ出火。此日、吉井娘ひる調練場ニテ犬ニ噛殺サレル。大騒動也。

\*長家(長屋)

(三月) 二十七日 晴。

三条殿ヨリ昼後二字、万里小路殿え行、稽古スル。

(三月) 二十八日 晴。

終日揮毫。

三月二十九日 晴。

撰齋、裏松家え行レ候処、裏松様独乙ヨリ出、殿え報知ノ書中ニ、西洋十二月八日青木氏方え  
至ル、姉小路二面会スト御坐候故、先々安心いたし候。

独乙 月ボ四十両 入湯三朱 芝居壹歩弐朱 小休茶代共一朱

右之通承り来り候。柳原家令高橋。

独乙ニテ裏松殿、入江殿、シナイテル教師之名之塾ニ入学罷在候也。外務省庶務掛岩多真行。此  
日、綾小路殿御出也。又浪花土屋外ニ耆人門人を同道ニテ来ル。吉井倍道添書持参ス。

\*月ボ(月俸) \*壹歩(壹分)

(三月) 三十日 晴。

終日揮毫。此日石山様より呼来、夕五時頃より参殿ス。此日元三月三日ニ当り、雛祭ニテ冷泉様も御出ニテ、夜九時頃帰殿ス。

(三月) 三十一日 晴。

終日揮毫ス。長谷川てつ女入門ス。広雲会頼ニ来り候。夜、渡辺来られ一宿。東花堂来。

(四月)

四月一日 晴。

終日揮毫ス。朝、水島来。根岸田中、会頼ニ来り候。此日、安井三人入門。外ニ花の娘二人入門ス。

(四月) 二日 晴。

昼後より万小路殿え稽古に行。此日、久麿殿入門致され候。夕景、帰殿也。

(四月) 三日 晴。

終日揮毫。

(四月) 四日 晴。

此日、殿様独乙御着御祝、且御長生御祝ニテ、夕方ヨリ石山様、菊姫さま成らせられ候。牛込山片菊女、友之助、須田弘、たか也。夜十二字過迄大さハき候也。実ニくおもしろき事也。  
\*大さハき(大騒ぎ)

(四月) 五日 晴。

(コノ日、記事ナシ)

(四月) 六日 晴。

荒木寛一新居開宴、不参いたし候。

(四月) 七日 晴。

三条西様え商法の品々頼みに行、又三条様えも同相頼、万里小路さまえも相頼候也。日暮ア帰る。此時、極モ同道也。

(四月) 八日 晴。

よし姫さま、撰斎、千世滝、花蹊、岩太、中橋松崎え写真写しに行。夫ヨリ上野え行。花満開、大々賑々シク也。七ツ時、御帰殿。

(四月) 九日

(コノ日、記事ナシ)

(四月) 十日

此日当り、外務省庶務掛ヨリ花鳥山水草稿差出す様申来り候。

(四月) 十一日 晴。

昼十二字ヨリ花蹊、花山師ニテ、檉窓禪師古稀会ニテ万人楼え行。此帰路、上野え行。花満開、少々落花也。父さま外務省え行レ、宮本ニ対面シテ独乙行相頼み候処、承知被致候。

(四月) 十二日 晴。

昼後、万里小路さまえ御稽古に行、夫ヨリ三条様、信受院さま、丹羽、村上え行。夕景過、帰殿。

(四月) 十三日 晴。

父さま外務省え独乙字引、外ニ写真、書状等、独乙伯留林行相託し候。取次岩田真行、宮本、承知ニテ慥ニ差出し候トノ口上也。此日、寺島乾山来。白蠟印財三顆金一両ニテ買得ス。此日、ミツ蠟ノ印財二顆、乾山ニ頼ム。

此日、終日揮毫。夜、千世滝、花蹊、石山様え御暇乞二行。

\*印財(印材) \*印財(印材)

(四月) 十四日

終日揮毫。

(四月) 十五日 雨烈風。

(此日、浪花井上氏使来。此度井上金三郎子着東之由申来候。)

此朝、石山様御見立ニテ品川迄父さま行レ候。西京え蒸気車ニテ行レ候。花蹊、終日外務省用ノ草稿揮毫ス。此夜、大風。十二字、大地震也。父さま夜八字、品川ヨリ帰られ候。此夜二字頃ヨリ飯田町中坂ヨリ火事也。

(四月) 十六日 大烈風。

此出火、火烈シク実ニ風下ニテ火ノ子飛来。実に類焼必定トテ諸道具類不残かた付大変也。漸十字頃、火漸沈ル。此日、井上氏来ル。

\*沈ル(鎮ル)

(四月) 十七日 風少止、雨雷、又倭降。

此昼後より万里家え稽古二行。此日、寿良様、撰斎、千よ滝連テ牛込音羽観音え参られ候。途中二雨ニ御逢也。夕景、御帰殿也。花蹊、七ツ時帰殿ス。

\*俵(雹)

(四月) 十八日 晴。

朝、石山守来。石山様漸十七日夕御乗船也よし申来り候。寺田乾山来、印篆刻持参いたし候へとも僕不逢。東花堂画頼みに来ル。

\*寺田乾山(寺島乾山)

(四月) 十九日 晴。

昼後より撰斎、花蹊同道ニテ海運橋え井上氏え行。留主、不逢。夫ヨリ広重え行、不逢。福田

え行。父さま、外務省え草稿持参致され候処、庶務掛岩太真行不逢、上柳某二逢。右草稿置帰られ候。花蹊、七ツ時帰殿。父さまも此時下り帰られ候。此時、外務省宮本より使来、書状二独乙行之品、書状何也とも可差出様と被**申越れ候**。若亦宮本省に不居合候節は、外務省左局詰合御中、右之通認、届方御頼之書状添て御遣シ可成候、其筋え被申付置候也。

\*申越(れ)(衍)

(四月) 二十日 晴。

終日揮毫ス。此日、東花堂夫婦来。寺島乾山来、ミツ蠟**印財**持帰る。

\*印財(印材)

(四月) 二十一日 晴。

終日揮毫。此日、三条西様え行、従二位様致拝顔、御哥相願候。此日、仙石徹来。此日、岩田稻穂下野貫前神社**宮持**ニテ出立暇乞ニ来り候。

\*宮持(宮司)

(四月) 二十二日 晴。

半日揮毫。昼後ヨリ三条家え御頼みの画持参いたし候。夫ヨリ万小家え稽古に行、七ツ時帰殿候。此日より外務省画帖ニカ、ル。此日、福田てる女来ル。此夜、渡边先生来、**講義**ス。増山モ来ル。

\*講義(講義)

(四月) 二十三日 晴。

終日画帖揮毫ス。中橋加藤**社弟**来。遠州屋老人来。父様根岸え行レ候。

\*社弟(舍弟)

(四月) 三(二) 十四日 晴。

終日画帖揮毫。渡边先生御**社兄**始メテ来レ候。

\*社兄(舍兄)

(四月) 二十五日 雨。

終日画帖揮毫。

(四月) 二十六日 晴。休業。

終日揮毫ス。竹内胤周、子供弟子ニ頼みに来ル。芸州画工某来ル。夜、渡辺先生来ル。講義。此夜、煙草箱えイツ吸がらは入候哉、其箱焼ぬけて、**畳ネダ**迄焼ル。朝起テ漸右の事皆々相知候也。実に可恐事也。

\*イツ (何時) \*畳ネダ (畳根太)

(四月) 二十七日 晴、夕立雷鳴ス。

昼後より万里小路家へ行、教諭ス。夫ヨリ三条西家へ行、夫ヨリ渡辺先生へ行。此時、梅津氏ニ面会ス。渡辺重春君、明朝広田大宮司ニテ出立ニ付、暇乞いたしテ帰る。

(四月) 二十八日 晴。

終日揮毫ス。此日、奥山正胤、奥山照子、梅津教知、小原燕子来。暫時茶談ス。此夜、渡辺先生来、講義ス。此時、地大震。

(四月) 二十九日 晴。

終日揮毫ス。

(四月) 三十日 晴。

終日揮毫ス。

(五月)

五月一日 晴。

此日昼前より寿良様、重敬、千世滝、花蹊、友治郎、花山、前田うの也。水道橋ヨリ乗船ニテ**東橋**え着。夫ヨリ浅草え参詣シテ、殿様為御無事御祈禱ニ大般若経上ル。夫ヨリ又乗船シテ**亀**

井戸天神え参詣ス。藤花盛也。夫ヨリ良姫様、重敬、千世滝、花蹊、平田氏え行、梅津二面会ス。奥山父子他行中ニテ不逢、又乗船シテ所々景色眺望ス。夕景、帰殿ス。此夜、渡辺先生来、講義。増山栄蔵来。義論シテ鶏鳴迄也。

\*東橋(吾妻橋) \*亀井戸(亀戸) \*義論(議論)

(五月) 二日 晴。

水道橋外大谷木忠醇娘きた、依田平四郎入学ス。奥山正胤、照子来ル。花蹊、二字頃ヨリ万里小路家え行、教書。夫ヨリ通り辺え行、買物して、夕景帰殿ス。此留主中、井上金三郎、木村礼介、鴻池理十郎来。明三日浪花え出立の様、告来り候。此日、谷文中、文晁ノ追福展観会五月二十六日ニテ頼来り候也。

(五月) 三日 晴。

朝ヨリ石川内居島義之来ル。重敬、花蹊、海運橋井上方え暇乞に行、暫酒肴。鴻池理十郎、木村二面会ス。大悦。金三郎他出ニテ不逢。十二字後、帰殿ス。半日揮毫ス。此夜、渡辺先生来、講義ス。

(五月) 四日 晴。

朝ヨリ大烈風。先年二月廿六日和田倉焼之日と同様之大風也。正十二字より本郷大火、三字頃沈火。又同所五字頃再火、夜八字頃又出火。夫ヨリ皆々一眠中御所大火。此時十二字也。大砲三発。皆々此声ニ驚。御所丸焼也。

\*沈火(鎮火) \*大砲(大砲)

(五月) 五日 晴。

朝ヨリ牛込山形治郎兵衛、外三輩来、終日道具調いたし候。此日、三条家より使来、明日花蹊参殿候様申来候。梅津教知来ル。此夜、渡辺先生来、不講。

(五月) 六日 晴。

十二字頃ヨリ花蹊三条家え行。此日、細川峰君様、浜町細川様、綾小路様御出也。席書画スル。御客十二字頃御退坐。花蹊一宿。夜中腹痛ス。此日、沢藤女来り候。



(五月) 七日 晴。

此日、万里家へ行候筈、腹痛ニテ早朝人力車ニテ帰殿。終日平臥。此日、牛込きく女来ル。金子持参スル。終日居り候。七ツ時帰り候。

(五月) 八日 晴。

終日揮毫ス。花蹊病瘡、起テ終日揮毫ス。東花堂来ル。三国来ル。亦造幣寮官員間辺某来。築地脇屋義一來。

\*病瘡(病癒)

(五月) 九日 晴。

竹内勝太郎入門ス。石山梁文来。花蹊終日揮毫ス。増山栄造来ル。渡辺先生来、講義。

(五月) 十日 晴、風。

終日揮毫ス。鳳齋門人柳山来ル。此日、沢從三位長崎ヨリ帰京被致候。

(五月) 十一日 雨。

此日、前田西京出立ノ筈、雨ニテ止。間部来ル。終日揮毫ス。外務省雇人西洋人二輩来ル。夜、渡辺先生来、講義。此日、よし姫さま、重敬、両国辺散歩。此夕、西京松屋報知有。

(五月) 十二日 晴。

東花堂来。八丁堀桂川来ル。沢從三位来。此度魯国え全権公使ニテ出張被致候ニ付、藤姫殿も同道故、花蹊相頼ニ被参候。昼後、花蹊三条家へ行。夫ヨリ万里小路家へ行、教導ス。御玄關張付墨梅相認候。夕景、帰殿ス。此留主中、長谷川喜兵衛来。花蹊、教部省ヨリ御用召差紙来着ス。此時、山本氏モ同道也。

(五月) 十三日 雨。

朝第十字、教部省え出頭。補権訓導拝命。三島教部大丞奉。夫ヨリ芝大教院え出頭ス。三ヶ条命紙給候也。山本住吉、権祢宜兼少講義拝命。此日、広島県池田、御殿拝借ニ来ル。

\*命紙(令旨)

(五月) 十四日 晴。

終日揮毫。

(五月) 十五日 晴。

終日揮毫。此日、帝造幣寮行幸、拝見二行。此夜、渡辺来、講義。此夜、渡辺咄二云、良姫様此度教部省少教正拜命周旋致シ候処、同省ニテ秤儀有、大講義出仕ニ致シ候様被申候也。故ニ先何モ此拜命ノ事相断候相談ニ相(成)候也。

\*秤儀(評議)

(五月) 十六日 朝雨、晴。

揮毫ス。山口県田村清年、書画頼に来ル。午後三字ヨリ、よし姫さま、重敬、千世滝、花蹊、博覧会见物二行。中々沢山出品物也。七ツ時、帰殿ス。此朝、山本氏使ニテ渡辺え教部拜命ノ義ニ付、断ニ行レ候処、実情御最也、依テ渡辺今日教部え出仕ニテ可断答ニ候処、此日ハ他ノ用事有候故不参故、岩田氏又増田氏え相頼被呉候様、被申候也。此中ニ梅津来候テ、典、花蹊、良姫様、父様、千世滝面会ス。梅津云、良姫様教部御拜命ノ一条先々御待下され、僕明日出仕シテドコ迄モ教正御拜命之様儀論致し候間、明日迄の処御用捨下され候様申呉られ候也。故ニ御断之処は先々御止に相成候也。

\*義(儀) \*最(尤) \*儀論(議論)

(五月) 十七日 晴。

昼後より万小路さまえ稽古ニ上り候。夫ヨリ三条家え行、御屏風一双写し、七ツ時過ニ帰殿ス。

此日、山本典教部え行、梅津、良姫さまの事ニ付段々議論、実に最事也、夫故、先今一応相談と申事ニ相成候也。夜、渡辺先生来、講義ス。

\*最(尤)

(五月) 十八日 晴、大風。

此日、沢家より使来、藤姫さま此度魯行願之処、御聞濟ニ相成候故、吹聴有之、依之花蹊今夕

か今朝か可来様申参り候。夫二付、親共皆々打寄相談之処、沢從三位元より之気性承知致し候故、洋行は難有事ながら先々御断勘要と一統相治定致し、夫二付、父さま、千世滝さま、花蹊、立松迄行候処、是モ此度之洋行は可相止様ニテ決定ス。夫ヨリ千世滝さまハ万里小路様へ行レ候。父さま、花蹊、七ツ時帰殿ス。此時、伊藤軍八、野口之布二輩来、久々珍談ス。夕景、千世滝さま帰られ候。夕六字頃、花蹊沢家へ行。三位様、從三位、藤姫、從四位、澄姫、長丸、外女中二人ト同席也。此中ニテ花蹊申様、今日御吹聴之趣実恐悦存候、しかしながら此度私御供仰付られ候事、実以難有事ながら親共も老人ニ相成種々考候処、あまり遠方之事故親共も年寄何やら心ほそく思ひ候故、思し召の処は大く難有り候へとも御供ハ御免蒙り度と申上候処、從三位大怒ニテ、夫ならば夫ニテよろしい、何モ其方連テ行カネは行レヌト云ニモあらず、此度の供は願出候者沢山成事故、夫に其方ヲ一文なしニテ連テ行ふと思ふに、皆々外之人ニは千万両之金ヲ待ねは行レぬ事とて大々ゲキリン、先々其断之処ハ外ニ願参候者有之候故、夫ヲ連テ行ニ依テ願之通は承知シタ、然ながら是迄撰斎、千世滝にだまされ馬鹿にいられて居る事ハいくらかしれぬ、千世滝ヲ姉小路え世話したのは誰か顔ジヤと思ふている、みな私か陰ジヤ、夫ニ付テ撰斎も姉小路家え来り、右之通り人に跡見くゝと立られるもみな私か陰ジヤ、又花蹊モ東京え来テわしが外務卿ニテ外務省やら方々と周旋ヲシテヤツタ、夫故御用の画モ書る様に成たノジヤ、又御所え召れ候も皆々私か周旋ジヤ、正五位さまモ内覧ニは誰かしてやつたのじや、私か三条え行テ何モ角モ云テやつたらこそ内覧ニも勤られる様に成たのシヤ、夫にツバイテ洋行の出来候モ彼だけの出世ハ皆わしか陰ジヤ、ソシテ姉小路家ハ跡見の血筋ニテなくば姉小路家えハ行カレヌ事シヤ、夫故既にわしか血筋ノ至道ハ食ヤ食ハぬにシテ、そして跡見一統ハ姉小路家ニテあんかんとしている、全体に至道は姉小路家え居れねはならぬ事ジヤ、夫ニアのまゝにしてあるは甚相済まぬ事と呉々も申され候。なほ撰斎ヲをこそ種々云ひ聞かす事が有るに依るト仰せられ候。実に從三位の云はれし事一たりつはに返答可致筈ながら、先々こらへて此場は帰り候。実に御家のため国のため故、此場ニてうらみをはらそふとはそんなしなから、親兄弟も有事故とそんなし、かんにんいたし置候。此從三位の姦ねい益相知れ候。此從三位の事は死しても不可忘可恨やつ也。此夜九字頃、帰殿ス。親さまはしめ皆々此よし申入候処、皆々発イキドヲリヲ、忘食斗なから、堪忍して石山家須田弘ヲ頼み、今一応立腹ヲ直し可被下様、何分御酒のきけんニて右様の事仰られ候半哉ト何分ニも御きけん御直し下され度と相頼候筈ニて、千世滝早々石山家え行かけ候処、大雨ニて止る。

\*勘要(肝心) \*野口之布(ノグチユキノブ) \*待ねは(持ねは) \*ゲキリン(逆鱗)

\*ツゞイテ(続イテ) \*あんかん(安閑) \*うらみ(恨み) \*そんし(存じ) \*そんし(存じ) \*かんにん(堪忍) \*姦ねい(姦佞) \*イキドフリ(憤り) \*きけん(機嫌) \*きけん(機嫌)

(五月) 十九日

早朝、千よ滝、須田弘方へ行、昨夜の次第委細申入候て、何分昨日は御酒のきけんにて花蹊え種々の事仰せられ候事とそんし候まゝ、何分ニも御きけん御直し下され候様頼申入候処、須田氏早速沢家へ行、従三位面会にて益相怒り、花蹊に云れし通り仰せられ、花蹊の断の処は承知シタ、外々より沢山頼込も有之候間、早速十七才ニなる女子相治定いたし候と申事也、それハそれなから至道はあのまゝにして済者か、其返答可致様といろく悪口斗仰せられ、此上は姉小路家の事は一切世話も致し不申、是ヲこしらへて置たに依而、是デ姉小路家の手切縁切とて、須田え相托され候。是は別段人使にて差出し候と存居り候処、幸弘来故、慥ニ姉小路家え相渡し候とて、須田持来り候。其表書に、

昨年来四五度被為成候節召上り候だんこ代并茶ノ銭乍延引式十銭さし出し候。彼是延引御まぢかねと存候。

沢従三位 跡見正五位様

右之通り書て中に二十銭入て御坐候。是は従三位が姉小路にて食たおしたと云は、四、五度姉家え行たせつ御茶御菓子とてだんごを出し候。夫斗ヨリ世話にならぬ、是ニテ其義理は相済候故、是か姉小路家手切之印也とて被遣候也。実に一文不知の女童の仕方とも実には狂人の如き様也。無論やつ也。

○此夜、山本氏右の一条甚しき仕方故、山本、須田氏迄行、至道一条之事は跡見の不有所知、依而此一条は従三位面会にて委細可申聞様とて、至道の終始ヲ申入候処、須田氏も此事は一切不存知、大ひつくりいたし居り候。至道姉小路家ヲ、リヤウ可致之事件相露見いたし、至道より其 証文相取置候次第も申、是は沢従三位に一々返答可致と申候へは、須田氏もひとく相とめ候故、先々此場ハ帰り候。

○此夜、渡辺氏来、講義ス。此日、綾小路様成らせられ候。五辻さまも成らせられ候。

\*きけん(機嫌) \*そんし(存じ) \*きけん(機嫌) \*こしらへて(拵へて) \*フリヤウ(横領)

(五月) 二十日 晴。

須田氏来り、種々沢一条之事ニ付テ父さま面会シテ、千世滝、沢家ニテ世話ニ成候ヨリ前ニ、沢千願院跡見世話いたし候事、一々返答致し、此度の姉小路の手切も世話ヲせぬと仰せられ候は世話ニならぬともよろしく、何もこちらより迷る喧譁にあらず、沢家ヨリ仕出したる事故、夫はどこ迄も其意に随ひ、世話も相たのみ不申、また世話してやろふと云れ候へは、また世話ニもならふし、是は随意也ト答へて其まゝ也。

(五月) 二十一日 晴。

此朝、山本氏、矢川捨蔵供ニテ、大坂住吉禰宜出張ニテ出立致され候。同役薩人も同行也。前田氏の女も同道、帰京出立也。昼後、花蹊万里家行、稽古ス。夕景、帰殿也。渡辺氏来、講義ス。

此夜、柳原辺出火。

(五月) 二十二日 晴。

此朝、梅津来、良姫さまの御拜命の義ニ付段々周旋致され候処、上官ノ処ニテ教部のさまだけいたし候者有之候よし、教部の方ハしきりに相すゝみ候へとも、何分こぼむ者有ては却而梅津等の心配も無に成候訳も有之候事ニテ梅津も段々相たのみと候ゆへ、よし姫さまは女教の真木ト御成下され候て、女教院盛大に相行ひ度一念ニ付、右様のわけならば、こなたはいかほとの下官たりとも御国の御為に御成遊す事ならはいか様ニもと、相答候処、梅津大に悦、早々教部へ行レ候。此時、本願寺手柄父子来る。福田てる女来る。夜、赤坂辺出火、二所也。

\*義(儀) \*さまだけ(妨け)

(五月) 二十三日 晴。

終日揮毫ス。三条西家使来ル。浪花槇楚山先生より報知有之候。東京伊勢町瀬戸物町越後屋新兵衛性鎌田、楚山先生の親類のよし也。浪松屋町高麗橋南え入槇芳太郎方二寓、槇楚山。此夜、渡辺氏来、議講ス。十二字也。一眠シテ、大雨大雷鳴。

\*性(姓) \*議講(講義)

(五月) 廿四日 晴、小雨。

終日揮毫。青山修治郎来。道具屋来。此日、宮内省出納所より夕景即刻出頭之よし申来。典参り候。秩禄式十二石五斗手形請取候也。夜、火。

(五月) 廿五日 朝雨、午後晴。

終日画。哥子来。燕子来。山田とみ女画の入門いたし候。此日、入江殿家令来。独乙郵便出来候よしニテ御報知被致候故、御同様ならば同差出し候様申来り候。此日、教部省ヨリよし姫さま御用召差紙来り候。廿七日出頭のよし也。故に典、万里小路家え申遣し候。

(五月) 廿六日 晴。

朝、万里家え行、教導ス。此時、宮内大輔様御面会申上候テ、よし姫さま御用召之条々モ委細申上候。此訊は大教院ニテ女教院行ヒ女引立度と段々人力ヲ尽す者有之候よし委敷申入候処、是ハ成程ヨキ事故、建言成とも一応見度と仰せられ候也。此女子引立の事は、皇后様より御引立に成らねは成らぬ事故、此事は是非申入て行々盛大の様、可取行(致)度と御ねんころに仰せられ候故、先々安心いたし大悦不過之候也。十一字、帰殿ス。一字頃ヨリ花蹊、典、中村楼え出会ス。谷文晁追悼、谷文中被行。文晁遺墨展観、実に文晁たるへき者也。山水花卉好々也。下ノ別席ニテ清唱合奏一、二曲聞。又暫時席画シテ退坐、夫ヨリ柳島梅津方え行。他出ニテ不逢、即帰殿ス。此日、池田氏御坐敷拝借ニテ引移り候。

(五月) 廿七日 晴。

朝十字、良姫さま、撰齋、花蹊、教部省出頭、補大講義拜命。夫ヨリ芝大教院え出頭。御礼モ相済候。局長ヨリ私え相頼まれ候女教院御取立ニ付、女教師人選可致様トノ事也。午後一日頃、退出。夫ヨリ万里家え行レ候。宮内大輔様御出勤中ニテ不逢。四字頃、退出ス。此日、独逸姉小路様え報知之手輸入江様え相頼みに撰齋行レ候。即承知ニテ今廿八日發候よし也。此夜、典、渡辺氏え行。同重春君西之宮より帰られ候テ面会ス。山口、心月ヨリ請取書落手候。

\*午後一日頃(午後一字頃)

(五月) 廿八日 晴。

朝、島義之来、画相頼候。此日、西京蓮観院様え報知ス。岩田茂穂来。三字頃ヨリよし姫さま、撰齋、花蹊、上野辺迄筆拵に行、五字頃帰殿。梅津教起、照子来り居り候。女教院發行之義ニ

付、相頼みに来り候。献言書持参致候。夕景、退坐致し候。此日、水島も来り候。

\*義(儀)

(五月) 二十九日 晴。

午後三字頃より花蹊三条家へ行、貞誠院さま一周忌ニ付、御備物御使相勤候而、夫ヨリ万里家へ行、宮内大輔様面会、女教院之義ニ付、梅津より献言之書差上置候。夫ヨリ七ツ時、帰殿ス。此日、よし姫様御風邪ニテ御臥籠あらせられ候。

\*御備物(御供物) \*義(儀)

(五月) 三十日 晴。

終日揮毫ス。よし姫さま御腹痛ニテ御あしく候也。三浦相伺候也。夕景、阿野若殿、増山栄吉来ル。此日、島義之来。此日、石山様ヨリ御知せ来。昨日、石山様西京ヨリ御着のよし申来り候故、即参殿ス。

(六月)

六月朔日 晴、風、夜雨。

朝ヨリ万里小路家え教導ニ行、夫ヨリ通辺え調物ニ行。不斗福田之門通り呼留られ昼飯しテ、又三条西家へ行、良暫咄して帰り候。三条西正二位さま、此日浪花え御出立也。

(六月) 二日 晴風、夜大雨。

山田富女来ル。大教院神殿上棟式相行レ候ニ付、明第十字正服用出頭参拝之差紙来ル。

(六月) 三日 雨。

十二字頃ヨリ大教院え出頭ス。即講堂へ行、大神宮上棟式拝見ス。奏勅判ノ席ヲモウケ参拝之人数実ニ数万人トおほしき也。上棟式実ニ難有事也。式済テ勅人ヨリ段々参拝ス。夫ヨリ又人力車ニテ帰殿ス。此日、正五位公義公ヨリ四月四日出書状、万里家より当着ス。

\*当着(到着)



(六月) 四日 晴。

梅津教起来。当十七日大神宮社立上りニ付開講、并女教院開講ニ付、よし姫様当日御ノリト御上下され候様、大教正ヨリ之仰ニ付、梅津頼みに来り候。しかしながら姫様此度御病氣、御目かすみ細字なそは見へまさぬよし故、其事は申置候。此時、三浦氏来、御目診察いたし候処、ソコヒノよし申、一統大ぬに驚入候。早速須田氏へ行、目医師霧淵の処尋ねに行候。弘留主中ニテ不相分歸り候。実にく一統大心配いたし候。此夜、渡辺先生来られ候也。此日、花蹊シヤク取ツメ候テ又大驚、暫して相ひらけ候。

\*ノリト(祝詞) \*ソコヒ(内障) \*霧淵(桐淵) \*シヤク(癩)

(六月) 五日 晴、又雨。

朝、須田氏来。右霧淵え頼みに行様申来、即行、面会ス。今昼後、参殿のよし申来り候。牛込山形治郎兵衛来ル。姉小路公義公ヨリ李国ヨリ三月二十八日出書状当着ス。御無事留学大勉強の趣ニテ一統安堵致し候。山本坦氏ヨリ報知有。六月一日出也。又前田清兵衛よりの書状も来着ス。昼後、霧淵来殿ス。良姫さま御目病診察ス。やはりソコヒニテ俄に御人見開キ候故、御請は不申上、是ハ西洋人ニテモ療治は六ヶ敷よしニテ一統大驚候。早々に千世滝浅草え参詣ス。七日間断食ス。

\*霧淵(桐淵) \*李国(勃国) \*霧淵(桐淵) \*ソコヒ(内障) \*人見(瞳)

(六月) 六日 晴。

朝、万里家へ行、稽古ス。十二字也。夫ヨリ石山家へ行候処、此日沢卜同道ニテ堀切菖蒲見ニ行レ留主中ニテたか女老入ニテ二字頃迄居候。夫ヨリ船引方へ行、初枝ニ面会ス。良暫咄しテ帰殿ス。東本願寺学長中講義専徳寺本多慧鑑来り候。越後高田人画頼来り候。結城来、画相頼候。当時両国スワ町南芳ノ近辺ニ居り候也。花蹊、神田綾小路家へ行、有長卿様面会ス。若殿様、外二輩奏楽聞、女教院開講ニ付、十七日女子奏楽相頼みに行候。日暮、帰殿ス。よし姫御目病少々御快御様子也。燕子来り候。

(六月) 七日 晴。

興正寺末寺休寺梅園秀暁来、画ノ入門願来候。時年八十二才也。当時鍛冶橋外五郎兵衛町十



七番地三河屋源兵衛内居也。霧淵来。よし姫さま御眼病よほと御快成らせられ候故、大ニ安心いたし候。此日、浪花住吉大宮司家扶橋本来。山上有則元桑太夫之書状持参いたし候。津守大宮司、昨日京着。芝芝居町十五番地村田専助ニ旅宿也。

\*霧淵(桐淵) \*芝居町(柴井町)

(六月) 八日 雨。

雨中ながら人力車ニテ花蹊、宗従四位様え到り、十七日御祭典ニ付、御隠居さま御樂被致候よしニテ奏樂相頼ニ行候処、従四位さま留主中ニテ、奥方面会ス。右奏樂之処相頼置候。昼後三字頃也。夫ヨリ又根岸菊岡方へ行、常樂ニ面会ス。十七日奏樂之処相頼候処、病後ながら御請申上而、笙、笛、七りき的人数相揃候故、先々安心いたし候。日暮後、帰殿ス。雨未収。

\*七りき(筆簾)

(六月) 九日

朝ヨリ典、大教院え梅津面会ニ行、逢、右奏樂之事為致安心度故申入候処、婦人奏樂は相止のよしニテ当惑いたし候。早速郵便ニテ対州、根岸え相断候。此夜、渡辺先生来。

(六月) 十日 晴。

住吉大宮司津守来られ候。久々ニテ昔咄し致し候。此時、燕子来。皆夕景迄也。此日、対州倉懸来、奥方面の入門頼ニ来り候。承知ス。此日、よし姫様教詞師仰付られ候。

(六月) 十一日 晴。

此昼後、対州奥方面入門ニテ来られ候。暫居られ候。

(六月) 十二日

花蹊、芝高堂え御祭典習礼ニテ出仕ス。七ツ時、退出。万里小路家へ行、大輔様拝面ス。此夜、招魂社花火也。別テ此夜寒ク候。

\*高堂(講堂)

(六月) 十三日

終日揮毫ス。梅津夫婦来。夕景迄居られ候。

(六月) 十四日

終日揮毫ス。渡辺源左衛門来。渡辺染之助擊劔会主致され候よしニテ頼みに来り候。

(六月) 十五日 晴。

昼前ヨリ、よし姫さま、父さま、花蹊、芝講堂え祭典習礼に行。しかしながら三条公行臨ニテ、時刻延引ニテ被致習礼、御帰殿也。此夜、御頭病ニテ実にくひとき事ニテ大々心配いたし候。昨日、照子細袴仕立井上え相托し候。

(六月) 十六日 晴。

松岡、生島、梅津夫婦、小原燕子来。良姫さま、花蹊、習礼ス。御教詞御上遊し候。照子説教いたし候。日暮迄大々義論也。此夜、教院より廻文来、明第五字より御祭典ニ付三字出頭の上し申来り候。夜十二字より起、皆々相こしらへ夜引明、芝女教待合に大(以下、記述ナシ)

\*義論(議論) \*こしらへ(拵へ)

(六月) 十七日 晴。

夜引明、良姫様、撰斎、千世滝、花蹊、人力車ニテ芝女教休息所へ行。朝五字ヨリ御祭典也。神官直垂烏帽子、僧侶七宗盡出仕、数千人也。午後二字、良姫さま教詞御上ニ相成、扶持ニ花蹊、燕子、其外拜命之婦人、大講堂ヨリ神前え練行。良姫様御髪童ニテ緋ノ袴、打着ケン紋紗松かさね也。御教詞自懐ニ差シテ徐ニ御進歩の御様子、実に只人ならぬ事と被存候。夫ヨリ神前ニテ大声ニテ教詞御上ケに相成、其速事実ニ妙々也。側之人々、参拜之人々モ一同落涙いたし候。右之御大役御済相成、夫ヨリ説教、皇族方ヨリ御好ニテ西川説教いたし、又照子説教ス。実ニ大声ニテ速成事也。夫ヨリ良姫さま御帰殿也。

\*打着ケン紋紗(袿頭紋紗)

(六月) 十八日 雨、昼後晴。

梅津、生島、昨日御祭典、よし姫様御容からだ凡人ならぬとテ大秤判聞テ悦て来り候。夫ニ付、人々寄腹いたし候折から、乗御時テ暇、女教院早速相調ねはならぬ事、夫故姉小路家拝借いた

し度由ニテ相頼まれ候故、速ニ承知いたし候。夫ニ付、種々熟談ス。夫ヨリ当廿五日当家ニ開校決定ス。

\*大評判(大評判)

(六月) 十九日 雨。

此日、石山寿か来。霧淵来。

\*霧淵(桐淵)

(六月) 二十日

(コノ日、記事ナシ)

(六月) 二十一日 雨。

梅津来。昼後三字頃ヨリ宗家え稽古ニ行、教導ス。五字、帰殿ス。此日、花の来ル。

(六月) 二十二日 雨、又晴。

午前十字頃、花蹊、花山、人力車ニテ福田へ行。此日、新兵衛一七日退夜也。故ニ花山置テ、夫より芝大講堂へ行、直餐被下ニテ神官、僧侶、尽出頭ス。花蹊、午後一日大講堂ヨリ万里小路家へ行。裏松守若丸様キヤウフウノ虫ニテ中々御大切之御様子也。伴姫さま教導ス。夫ヨリ又福田へ行。非時ニ附、実ニ叮嚀也。夕景、人力ニテ帰殿ス。長谷川十右衛門ヨリ外務省画帖何日迄出来相成候日限申来候よし申参り候。此日、大坂井上氏使来、金三郎様ヨリ書状来。是ニ国立銀行布告モ来。夫々近付先周旋致し呉候様申来り候也。大坂山本ヨリ文来。

\*午後一日(午後一字) \*キヤウフウ(驚風)

(六月) 二十三日 雨。

花蹊、終日画帖画。

(六月) 二十四日 雨。

花蹊、終日画。午後、よし姫様、千世滝様、石山家え成らせられ候。此日、梅津、松島、燕子来、明廿五日開校の相談いたし候。夕景、退座ス。

(六月) 二十五日 晴、夜雨。

朝ヨリ梅津夫婦、松岡、生島、権田、燕子、八十子、直子、寿子、花野、古坂樹照、同慶子、内藤ます子、中川きみ子、田中角子二親、松岡知巳、永井ます、橋本たま。昼弁当出。午後二字、御祭典。夫ヨリよし姫さま古事記講義遊し候。訳舌如流水其上実に委しくしテ実ニ聴聞之人々巻舌候。此日、面々得意、説教或講義等可致之筈、此跡、読者共なし。夫ヨリ社頭祝哥之ヒカウス、夫ヨリ別席ニテ酒肴、夕景迄也。此(日)越後画工来。此日、万里小路家え御見舞差出し候。此時、守若丸様御死去のよし申来り候。

此日、花山、政次郎連て来り候。

\*訳(釈) \*跡(後) \*ヒカウ(披講)

(六月) 二十六日 晴。

朝、渡辺先来、講義聞。梅津来。花蹊、終日揮毫。父様、万里家え御悔且御見舞をせられ候御使二行れ候。

\*渡辺先(渡辺先生)

(六月) 二十七日 雨。

花蹊、終日揮毫。長谷川十右衛門来。山本より書状来。

(六月) 二十八日 雨。

終日揮毫。霧淵来、娘入門頼候。きしろ花野来、説教ス。

\*霧淵(桐淵) \*きしろ花野(木城花野)

(六月) 二十九日 雨。

終日揮毫。此日、住吉山本より書状来。

(六月) 三十日 雨。

終日揮毫。川島治郎助来。

(七月)

七月一日 晴。

内藤満寿子来。渡辺先生来。渡辺重春来。住吉大官司来られ候。終日揮毫ス。西京蓮観院さまより書状来。

(七月) 二日 晴、小雨。

松岡来。霧淵登女入門ス。大谷木氏来。画帖画。よし姫さま、千よ滝、万里小路家へ行かれ候。

\*霧淵(桐淵)

(七月) 三日 晴、暑甚。

朝、平田千代来。昼後より内藤ます子、梅津夫婦、燕子、花野、井上依国、田中角子、中村君子親子、松岡、中川、外に霧淵登女、花蹊門人婦人不残、良子様古事記御講義有。角子、燕子、照子、花野説教ス。夕景、退坐ス。肥後人彦兵衛事青木弘来。

\*井上依国(井上頼圀) \*霧淵(桐淵)

(七月) 四日 晴、夜雨。

終日書画ス。牛込山形社弟来。夕景、渡辺先生来、講義ス。浪花井筒徳え葉出ス。此日、大教院より千世滝五日午前十字御用召申来り候。

\*社弟(舎弟)

(七月) 五日 晴。

典、朝、梅津へ行。夫ヨリ大教院え千世滝名代相勤候。十級試輔仰付られ候。

(七月) 六日 晴、雨。

朝ヨリ父様、花蹊、芝住吉大官司へ行、面会、典之事相頼候。都合よろしく候。夫ヨリ築地脇矢へ行。他出ニて不逢。夫ヨリ尾里へ行。又留主中ニテ不逢。夫ヨリ入船町王暢斎方へ行。是は横浜へ行候て研池二逢、暫咄して夫ヨリ浜町梅津方へ行。良暫咄して夫ヨリ撃劔会へ行。靈

岸島越前旧邸也。渡辺源左衛門二逢。七ツ時より大雨にて人力車にて帰殿ス。此日、又津守大宮司来られ候也。

(七月) 七日 晴。

此日、すか子来。牛込きく女来。長谷川善兵衛来。

(七月) 八日 晴。

女教師集会日。良子様、古事記御講義。平田千代子、奥山照子、説教ス。松岡、梅津兩人、井上千代子、照子、燕子、花の、きみ子兩人、きみ子父、角子、花の門人老人、花蹊門人来ル。猿田彦講中頭森半之丞、北野清造、清水武兵衛、千足甚兵衛、藤田嘉七、桜井富五郎、佐服清兵衛、中原茂兵衛、有沢甚九郎、野沢新次郎、小泉鉄五郎十老人来、献上物致し候。説教過て酒肴出ス。夕景、皆々退座ス。

(七月) 九日

終日画。此日、瀬戸物町鎌田番頭来、楚山先生よりの文持参いたし候。

(七月) 十日 雨、大雷。

松岡来。午後、桐ふち登女来、同操入門ス。山田とみ女来。造兵寮出仕間部来。此日、典、芝津守大宮司え楚山行団扇、書状相託し二行候。

\*桐ふち登女(桐淵登女) \*造兵寮(造幣寮)

(七月) 十一日 雨。

朝、渡辺先生来、講義ス。松岡来。父様、福田え行レ候。霧淵来。花蹊、終日揮毫ス。

\*霧淵(桐淵)

(七月) 十二日

(コノ日、記事ナシ)

(七月) 十三日 晴。

女教集会ス。

(七月十四日〜廿一日、日記ナシ)

(七月) 廿二日 晴。

神田大和町鍵屋新兵衛ヨリ女教師請待ニテ万里小路大講義様御はしめ、千よ滝、花蹊、燕子、長子、角子、中川きみ子、中村きみ子、井上、松岡也。御共父さま、きみ也。十字、御出門ノはつ、照子遅刻ニテ漸一字頃来。夫ヨリ御出門也。水道橋より御乗船ニテ明石屋え御小休、夫ヨリ人力車也。左右ニ講中麻上下ニテ警衛シテ大和町え御着也。此道すからの人如山也。良姫さま神前ニテ御祝詞御上ニテ夫ヨリ説教遊し候。実に聴聞の人々流涙候。夫ヨリ照子、長子、説教ス。此時、照子緋袴着致し候テ大くモメニテ暫不相済候。三字過、退座。夫ヨリ人力車ニテ明石屋の河岸ニテ御乗船也。水道橋より御上ケニテ還御也。

\*御共(御供) \*はつ(筈)

(七月廿三日〜廿五日、日記ナシ)

(七月) 廿六日 晴。

宗家え稽古ニ行。絹地堅物ニ枚揮毫ス。此日、両国大花火ニテ宗家より舟遊、両国え行。夜二字頃、帰邸。一宿ス。

(七月) 廿七日

朝、帰殿ス。

(七月廿八日〜三十一日、日記ナシ)

(八月)

(八月一日〜廿三日、日記ナシ)

八月廿四日

昼七ツ時、御長屋ニ住居リ候大工久治郎、我宅え火ヲ付、近所より申聞候へとも不聞入、我家ニテ我火ヲ付る事何可とがむとて中々不聞入、裏ヨリ炭俵二ツモ持入候て、夫ヲ火ノ中え入、うちわニテあをき候故、火は天井えつかんとするを、高橋ト申人店ノ父さまえ申入候処、父さま即とんで行レ候テ大声ニテ長屋一統水はこべとて命せられ候処、尽人数出候て漸火は沈り、天井モ不拔、先々安心いたし候。此夜、大工久治郎、右の罪は不上候テ只長屋入用ニ付、只今より追逐り候とテ引請人え相渡し候。翌日、長屋一統近所えも銘酒一瓶ツ、相配り候。

\*とんで(飛んで) \*沈り(鎮り)

(八月廿五日〜三十一日、日記ナシ)

(九月)

九月一日 晴。

朝、宗家え行、画稽古シテ、一字帰殿ス。

(九月) 二日 晴。

朝、万里小路家え稽古ニ行、一字帰殿ス。

(九月) 三日 晴。

女教井上、梅津、燕子、長子、照子、君子也。古史成文輪講也。夕景、退座也。

(九月) 四日

此(日)、花蹊、長子、照子、芝大講堂え説教聞ニ行。深川照隈、土泉吉祐説教ス。三字止。夫ヨリ花蹊、長子、霧淵え行、目ノ療治シテもらい、夫ヨリ帰殿ス。照子は先帰り候。

\*霧淵(桐淵)



(九月) 五日 晴。

朝ヨリ霧淵操、登女来。山田富女来。終日、画ノ稽古致し候。大岸元琴来。霧淵操、登女、二弦之入門ス。

\*霧淵(桐淵)

(九月) 六日 晴。

終日揮毫ス。

(九月) 七日 晴。

朝、万里小路家え稽古二行、十二字帰殿ス。此日、浜荻典侍さま御下リニテ、三字頃ヨリ良姫さま、花蹊、人力車ニテ万里小路家え成らせられ候。早速典侍さま御逢ニテいろく御咄しいたし候。猶色々御馳走ニテ五字頃退出ス。燕子ヨリ頼みの袱紗五十五枚認ル。

(九月) 八日 曇。

井上、梅津、燕子、長子、照子、角子、中川きみ子来。徳大寺家長屋之人来り候。夕景、退座。

(九月) 九日 晴。

終日画ス。平田可道来。池田二女入門頼来り候。承知ス。夕景より千世滝、花印、山田え行。此時、燕子も来り居り候。十字、帰殿ス。

(九月) 十日 雨。

山田とみ女来、稽古致し候。

(九月) 十一日 朝雨、午ヨリ晴。

此日朝ヨリ、寿さま、父さま、千世滝、芝居え行レ候。此日、画ノ稽古日ニテ霧淵操、登女来。秋女画ノ入門ス。終日稽古シテ帰り候。大岸元琴来、又稽古ス。よし姫さま御入門遊し候。桐淵道齋来。又寺島謙山来り候。夕六字、寿さま、皆々御帰り也。

\*霧淵(桐淵)

(九月) 十二日 雨、午後晴。

此日、池田安代入門ス。八ツ時ヨリ三条家へ行。よし姫さまヨリの菓子持参いたし候。夫ヨリ万里家へ行、稽古しテ帰り候。

(九月) 十三日 晴。

昼後、土御門増姫入門致され候。井上、梅津、松岡、長子、照子、燕子、角子、若江、中川きみ子母来。徳大寺長屋の人々来り候。五字濟、退坐。燕子より頼候袱紗二十二枚認ル。

(九月) 十四日 雨。

画法帖一冊、書画扇十三本認ル。

(九月) 十五日 朝雨、晴。

此日、水島均也大坂住吉え出立致され候。此朝ヨリ桐淵操、秋、登女、山田とみ女、宗奥方、平間きせ来、夕景迄稽古いたし候。大岸元琴来。此日午後四字頃、長谷川ヨリ使来、外務省庶務懸より画料金之義ニ付承合致義有之由ニテ、即刻出頭申来り候。即人力車ニテ重遠行候処、省ひけて後故、事不分とて帰り候。

\*義(儀) \*義(儀)

(九月) 十六日 晴。

終日、外印画帖認ル。長子来。沢鶴女来。沢従三位の仕方あしくとて大くうらみ、なき候。子供二人共沢家え取あげ候テ鶴女不寄付候よし申来り候。実に昨年、こなた十両の金子二重取して、其上いろく無理非道の仕うち、今目前むくひ来り候事可恐く。今従三位の成わひ見る計也。此夜、須田弘来。石山家ヨリの使ニテ、此日、石山家え沢藤女行レ候テ、姉小路様と不和ニテハ従三位モ遠方へ行レ候ニ第一の御里ヨリハ老人モ不人来候テハ世見外分あしく候ゆへ、石山さまヲ相頼まれ候テ、明十七日別杯ニよし姫さま招たくよし申来り候。今少シ分り兼候ゆへ、よし姫之御使ニテ、千世灌、此夜石山家へ行、明日沢家ヨリよし姫さま御招ニ相成候よしなから沢家ヨリ人使もなくテはいか、此筋立テよりなくハ不行と仰せられると申候へは、夫は石山、明朝沢家へ行、其口上を以テ姉小路家へ行候故、何分是迄之立腹は石山に面し此度之処は先々かんにんして明日は居てくれ候様仰せられ候故、実に口をしき事なから石山さ

まニ対し何事も申不出候事ニ相来候也。三条様より額面御染筆来る。御染筆、石山様え相渡し候。

\*成わひ(成合ひ) \*世見(世間) \*外分(外聞) \*面し(免し)

(九月) 十七日 雨。

朝、石山様成らせられ候テ、沢家え行テ昨夜の咄しの通りニて今日よし姫さま招かれ候故、其御請に迹見、沢家え御使ニ行くれ候様御頼みに相成候ゆへ、父さま、沢さまえ其よし申行レ候。午後一字、石山さま、菊姫さま、寿か、弘来。こなた、よし姫さま、千よ滝、父さま、人力車ニテ御同行也。柳橋川長へ成らせられ候。夜十字頃也。此日、三条西様より御使来、御千寿さま御文御さつし下され候。

(九月) 十八日 雨。

女教集会。井上、梅津、松岡、長子、燕子、照子、角子、若江来。私、三時ヨリ三条様え参殿して、暫しテ万里家え行。皆々御留主ニて即帰り、三条西さまえ行。若殿さま御督さまに御めにかゝり候。夕景、帰殿ス。此日、御所御皇子御降誕ニテ即逝去あらせられ候よし也。実に御残念不過之候。

(九月) 十九日 雨。

昼後より父さま、千世滝、花蹊、通り迎え調物に行、七ツ時帰殿ス。

(九月) 二十日

画稽古日ニテ桐淵操、秋、登、富来、終日稽古ス。此日、外務省え父様行レ候。

画料六十両正ニ請取候。

証

一金四十四両也 草花山水画二十式枚

但、壹枚ニ付、貳円宛

右之通御払下、正ニ奉請取候。以上

酉九月

花蹊代

跡見重敬印

証

一金拾六円也 草花画八枚  
但、壺枚二付、式円宛

右之通御払下、正ニ奉請取候。以上

酉九月

花蹊代

跡見重敬印

沢從三位、此日出勤帰り候てより面種物出来候よし也。  
十九日、二十日、二十一日、三日之間御調止也。

\*種物(腫物)

(九月) 二十一日 晴。

朝、宗家え稽古ニ行、午後一字、帰殿ス。

(九月) 二十二日 雨、終日雨。

終日画。此夜、大雨。此日、緋桃典侍さま御産後御死去也。

(九月) 二十三日 雨。

終日大風雨、近来に珍らしき雨にて水道橋辺、牛込辺、家の流レ候モ有、死人も有、中々大変也。御茶の水よりモ上え水上り大水也。夕景ヨリ少々小雨ニ相成候。

(九月) 二十四日 晴。

午後二字ヨリ花蹊、万里小路家え稽古に行、六字頃帰殿ス。太輔様御面会にて重遠之事御願申上候也。

\*太輔様(大輔様)

(九月) 二十五日 晴、小雨又止。

画稽古にて桐淵三人、山田富来。午十二字、御所御出門ニテこなた門前神葬祭ニテ御通行也。牛込豊島岡ニ御納り也。平田長子、梅津教知、照子来。石山菊姫さま成らせられ候。

(九月) 二十六日 雨。

終日画。平田長子来。梅津、安部新造来。巴女来、一宿す。

(九月) 二十七日 曇。

二字頃より万里家え稽古二行、即帰殿ス。此日、沢従三位病氣覚束なく次第にて、よし姫さま暇乞ニ成らせられ候。御帰殿後、四字二分死去いたし候。当月十七之夜より種物にて段々手をくれにて中々くるい死之様子にて扱々おそろしき事也。

\*種物(腫物)

(九月) 二十八日 晴。

此日、集会相休候へとも、梅津、井上、若江来、午後帰り候。長子、燕子、花の来、七ツ時迄居られ候。此朝、よし姫さま、沢家え成らせられ候。暫して御帰殿也。

(九月) 二十九日 雨。

終日揮毫ス。長子来。

(九月) 三十日 雨、晴。

とみ女、対州奥方、側人二人来、夕方迄画の稽古して御帰り候。八重、常盤来、稽古して帰り候。

(十月)

十月一日

朝より桐淵三人来、稽古ス、終日。千代滝、沢家え行、一宿。よし姫さま、花蹊、石山家え行。杜若内侍さま久々御目にかゝり候。夕景、御帰殿也。

(十月) 二日

万里小路さまえ行、稽古シテ、三条家え行、暫シテ、夕景帰殿候。

(十月) 三日

(コノ日、記事ナシ)

(十月) 四日

(コノ日、記事ナシ)

(十月) 五日

画稽古日ニテ桐淵三人、山田富女来、終日居られ候。大岸来。

(十月) 六日

昼後、宗家え稽古二行、七ツ時帰殿候也。此朝、花蹊、沢家え行。

(十月) 七日 晴。

沢家葬祭ニテ、よし姫さま御送り遊し候。御打着、切袴ニテ馬車也。撰齋、千代滝も行レ候。右葬、花蹊門前通行ニテ、杜若内侍さま、菊姫さま成らせられ候。四字頃ニ御帰り也。よし姫さま、九字御帰殿也。

此日、京師渡辺重石丸え書状差出し候。

\*御打着(御桂)

(十月) 八日 雨。

女教集会日ニテ、井上、角、若江、長子、花野、梅津、照子、燕子、最上来。此日、よし姫さま、千世滝、沢家より墓参り遊し候。昼後、花蹊、万里小路家え御稽古に行、四字過帰殿候也。

(十月) 九日 晴。

此朝、花山、会式ニテ帰宅いたし候。御殿御霊社御神事ニテ外ニ内祝もあらせられ候故、大祝いたし候。よし姫さま、千世滝御共ニテ石山さまえ成らせられ候。杜若内侍さまえ御頼ニテ古事記御講義遊し候。夜八字頃、御帰殿也。此日、独乙伯留林え書状出ス。

\*御共(御供)

(十月) 十日 雨。

画稽古日ニテ桐淵三人、山田富女来。大岸来。終日也。長子来。よし姫さま一寸御種物ニテ船引え成らせられ候処、他出ニテ、又船引来り候。

\*種物(腫物)

(十月) 十一日 晴。

梅津来。中山家より入門頼みに来り候。いと女使也。花蹊、終日外務省下絵揮毫ス。

(十月) 十二日 小雨終日。

朝十字、外務庶務掛え山水花鳥草稿廿枚差出し候。昼後二字より万里家え行、稽古ス。四時、帰殿、即石山家え行、夜九時頃帰殿ス。此日、裏松家長家ニ住居井上娘入門頼来り候。

(十月) 十三日

女教集会。此日、花山、巴女来、一宿。此日、渡辺鉄次郎当着也。

(十月) 十四日

巴女一宿。渡辺先生来り候。

(十月) 十五日

画稽古日ニテ桐淵三人、山田富女来、終日也。平田長子、大岸元琴、大谷木貞子来。二弦稽古有。巴女一宿。

(十月) 十六日

朝、巴女翹町前橋家え行候。此日朝ヨリ、今戸細川家え峰君様御所勞御尋申上候処、大ゐに御よろしく画御頼みニテ御側ニテ画沢山認ル、四時頃迄。六時、帰殿ス。車也。

(十月) 十七日

昼後、万里小路家え行、稽古ス。此時、大輔様より当廿日両皇后宮浜殿え行啓在らせられ候ニ

付、花蹊被召候。右差紙ニテ承知御受申上候也。

(十月) 十八日

此日、講究所、外ニ差支有之候テ止集会。しかし長子、花の、末広家内、梅津来。

(十月) 十九日 晴。

花蹊御用召之拵いたし候処、三条様より御使ニテ主人義昨朝ヨリ劇病ニ困褥被致候故、御為知申上候と家令ニテ来。一統大驚、夫より花蹊車ニテ三条家えかけ付(候) 処、御様子承り候へは先今日の御様子ニテハ少シ御よろしき様子也。夫ゆへ先々安心いたし、御手伝も申上度く候ながら御用召の義ニ付、夫ヨリ万里小路家へ行、夫より帰殿ス。宮内省ヨリ二十日御用召御延引ニ相成候よし御差紙来り候。夫より又花蹊三条家へ行、徹夜ス。

\*義(儀)

(十月) 二十日 晴。

三条様御病氣少々ツ、御よろしく成らせられ候。此朝九字頃、主上自御馬車ニテ御見舞ニ行幸有らせられ候。実ニ恐入難有さ感涙流し候。此時、千世滝御見舞ニ上り候。私同車ニテ千世滝ト共に帰殿ス。

(十月) 二十一日

又三条家え上り御見舞申上候。追々御順たうにて御食事も少々ツ、召上られ候御様子にて大く難有候。

\*順たう(順当)

(十月) 二十二日

此昼後より三条家え上り御見舞申上候。日々御よろしき御様子にて先々安心いたし候。此帰り懸、万里小路さまえ上り御稽古して帰殿ス。

(十月) 二十三日

此日、女教集会日にて、井上、梅津、松岡来。良子様御辞職表御出しニ相成候処、井上始大驚、



実に涙を流して此迄通りの様相願ひ候。此日、花蹊三条家え御見舞申上候。日々御よろしく御成遊し、御食事物も御好み遊し候様ニ成らせられ候よしにて、大く難有く存まいらせ候。此日亦、宮内省より二十五日御用召御差紙来着ス。御請申上候。

(十月) 二十四日

終日こしらへのみいたし候。

\*こしらへ(拵へ)

(十月) 二十五日 晴天。

朝八時ヨリ車ニテ御浜離宮え参上ス。燕の御茶殿にて休息ス。所々御庭の景色真写ス。無程、皇后宮御馬車ニテ行啓被為在候。被召候人は花蹊外、間宮八十子、肥後人米田花子三人也。中島の御茶屋にて拝謁ス。夫ヨリ又休息所え下り御昼戴、夫ヨリ所々御庭拝見いたし、花蹊御側え被召候テ書画共沢山入御覧ニ候。実に当日晴天一点の雲もなく風もなく実に春の心地にて、御上ニも一入御慰に有らせられ候御様子也。暫して御合の物御料理いたゞき、夫ヨリ又書画揮毫ス。五字頃、御還行有らせられ候。此日、御供万里小路様、福波也。私共夕景退出。夫より車にて七字頃帰殿ス。此時、千世滝事松岡え行、漸帰殿いたし候。拝領の御料理にて御内一統御祝酒いたし候。

\*御還行(御還幸)

(十月) 二十六日

此日、花蹊三条家え上り御見舞申上候処、もはやよほど御よろしく御成遊し候御様子にて、またく安心いたし候。夫ヨリ万里小路さまえ昨日の御礼ニ上り、序御稽古いたし候て帰り候。此時、巴女の事御頼みに相成候。

(十月) 二十七日

此日、銀座福田え文遣し候。

(十月) 二十八日

此日、巴女来り候。此夕ヨリ思ひ付、明日王寺え成らせられ候御治定にて、夜中髪結いたし大

く取込也。巴女一宿。

\*王寺(王子)

(十月) 二十九日 晴、三字頃ヨリ雨。

此日朝八字、御出門。良姫様、撰斎、千よ滝、花蹊、はる也。不乗車態々御歩行也。道すから染井の菊は少々はやく候故、作り物は御坐なく候。此野辺の秋色実に面白く、王寺扇屋にて一昼也。夫ヨリ稻荷え御参詣、夫ヨリ滝の川え成らせられ候。実に絶景奇々妙々也。紅葉も沢山少々染出し候へとも、先々三分位也。此景色真写して各一首ツ、歌詠の処、空曇出し、先此処はそこくにして、此御帰り道、野中にて雨降いたし、随分雨もひとく相成、雨宿の処もなく、実に野中にて車もなく、漸通り筋えかけ付車ヲ得、皆々乗車にて、夕景前御帰殿也。

\*王寺(王子)

(十月) 三十日 晴。

此日、巴女連て花蹊、万里小路さまえ上り候。御稽古上ケル。巴女は一宿いたし候。花蹊、夫より銀座福田えおてる女眼病見舞に行候。夕飯呼はれ候て、夜中車にて帰殿ス。八字頃也。昨日、万里小路家え本居教正参殿いたし居り候。

(十月) 三十一日 晴。

画稽古日にて桐淵三人、山田富女来。日暮、皆々帰殿。此日、女教説教所地神祭四日によしにて、夫に付、下稽古宜御相談物にて、麴町中教院え出頭のよし申来、千よ滝行候也。

(十一月)

十一月朔日 晴。

此日、神田綾小路家より呼に来、昼後行、七時頃日暮テ帰殿ス。此日、万里家より千世滝、花蹊兩人之内可来様との事二付千世滝参殿ス。然処、太輔様仰せられ候には、此ほと本居来、此度良子様御辞職二付一統大驚、宗教正出頭して可歎願筈、あまり事々しく候故、本居御馴染柄ゆへ参上して何ても御再職相願候ハねは女教も瓦解いたし候とて、種々相願候よしにて、万里

さまニモ右其よしならハ本人え申聞、其上の事と仰せられ候よし也。万里さま右様の事故、先々女教院之出来迄此迄通りに相勤候様仰せられ候まゝ、先々其御事に相成候。此辞職も段々訳有ての事也。梅津之所業安心ならぬ事のみ故、夫故夫とも仰せられず、只々御自分才の行届かぬ故とて御辞職ニ相成候へとも其懸りの人々大々キモヲヒヤシ候也。此日、井上松枝、信枝入門ス。

\*太輔様(大輔様) \*キモ(肝) \*ヒヤシ(冷ヤシ)

(十一月) 二日 晴。

此日、又今一応神拝習礼ニて、花印麴町中教院へ行、稽古ス。

(十一月) 三日 晴。

天長節、御祝モ相濟候。所々日の丸ノ明旗ヲ上ケ、実ニ賑々しき事也。

(十一月) 四日 晴。

朝八字、御出門ニテ、良姫様、栄子さま、長子、跡見千よ滝、花蹊、花山御供ニて下谷橋邸ニテ猿田彦大神、宮ヒ神ニ柱地神祭式ニテ女教師一統出頭ス。教院ヨリ教正夫々掛之人々も出、中々賑々しき事也。照子ハ不参いたし候。

\*宮ヒ神(宮比神)

(十一月) 五日 雨。

画稽古日ニテ山田とみ女来り候。此日、飯尾猶江入門ス。

(十一月) 六日

此日、千世滝、長子、梅津へ行レ候。よし姫さま、父さま、花蹊、招魂社え参詣、競馬をみて、暫して御帰殿也。此留主、宗奥方御出也。

(十一月) 七日

昼後、万里さまえ上り、稽古いたして帰り候。此日、両皇后宮品川御啓、此路ニテ公部省エノ木坂ニテ馬驚御馬車と共に御落込の御様子也。

此日、よし姫さま、跡見千世滝御共、浅草え成らせられ候。

\*御(行) \*公部省(工部省) \*エノ木(榎木) \*御共(御供)

(十一月) 八日

集会皆不参、井上壱人。燕子、勇子来。此日、花蹊平戸え行、従四位様御めにかゝり、七ツ時迄御咄して、此時、七日御馬車の落候事伺、帰殿早々夜中ながら万里さまえ参上してくわしく承り、御けか有らせられぬ御様子伺、安心致し候。

\*御けか(御怪我)

(十一月) 九日

当月五日出書状、住吉典より到来ス。典事、御用ニて十四、五日頃帰東のよし申来り候。

(十一月) 十日

画稽古日。山田とみ女、長子、宗奥方也。夕景迄。此日、よし姫さま、父さま、千世滝、愛治郎、通り辺え御遊行也。日暮後、御帰殿也。

(十一月) 十一日

(コノ日、記事ナシ)

(十一月) 十二日 晴。

此日昼後、中院正四位さま御出也。此時、寺島謙山来、金五百疋借用来、借遣し候。花蹊、三字頃ヨリ三条西家え行、住吉大宮司より之文持参伝え候。夫ヨリ万里小路家え行、稽古ス。太

輔様拝謁ス。

\*借(貸) \*太輔様(大輔様)

(十一月) 十三日 晴。

集会。長子、照子、角子、君よ、勇子、花の、松岡也。此日、三条西従五位さま成らせられ候。此時、中山従一位家従宮下某来、仲姫さま入門願ニ来たり候。

(十一月) 十四日 晴。

昼後二字頃より、花、父さまト同道ニテ三井迄行、四字帰殿ス。夕、千世滝、石山家へ行。此夜、渡辺先生御出、講義ス。夜一字也。此夜、御廻文来。十三日、小桜権典侍橋本夏子、皇女御降誕即刻御逝去、依而三日鳴物停止之事。さてく恐れく入候事也。いかにしてか、かゝる御事と歎息之至不可止事也。此日、愛治郎、下谷松岡え転宅祝持参いたし候。

(十一月) 十五日 晴。

明六ツ時、地震ス。画の稽古日ニテ山田富子来、終日。此日、石山家梁文子来。御家録米金請取持参被致、慥ニ落手いたし候。青山脩一郎使来、金子無心申来候処相断候也。此日、住吉大宮小宮司より書状来。夕、大岸ヨリ書状来。此日、福田より人來。照女、十三日男子出産のよし告来り候。

\*家録(家禄)

十一月十六日 晴天。

朝十時頃より花蹊、花山同道ニテ万里小路家へ行、稽古ス。夫より福田へ行、昼飯ス。二字下り、桐淵秋女婚姻祝持参ス。道齋面会ス。眼薬、水薬、通し薬十服持帰ル。此日、青山脩一郎、外ニ今老人来、金子無心申かけ大異論、大ニ困り候。中山家使来。仲姫さま、明十七日より入学頼来たり候。長子来、夕迄。夜、亦青山来り候。此夜、風。

(十一月) 十七日 晴。

朝、中山仲姫さま入塾被致候。此日、青山金子之件ニ付、因幡邸内住某来、愛治郎面会ス。金子件ニ(付)相頼、夫より愛治郎金子持参ニテ、浅草大六店ニテ中野ニ面会シ、青山モ来、金五円用立、則請取書持帰り候。

\*大六店(第六天)

(十一月) 十八日 晴。

女教集会。井上頼国、角子、長子、花野、勇子、照子来、即帰ル。伴トシユキ家内来ル。古史成文輪講、外説教ス。五字、退席。此夜十二字頃、店極岩太夜廻りいたし候処、長屋ノ明屋ニ賊忍居り候ヲ生取ス。此賊、十五歳ト十一歳也。段々糺問スル処、アイマイタル事計ニテ羅卒

え相渡し候。二字頃也。此日午後四時、典婦東ス。

\*明屋(空屋)

(十一月) 十九日 晴、夜雨。

故稚高依姫尊御神葬祭、門前行通被為在候ニ付、石山様、冷泉様、六条様成らせられ候。すか、富女来。十二字ニ濟テ、皆皆御帰也。すか女、二字頃迄。

(十一月) 二十日 晴天。

画稽古日。山田富女来。大岸元琴、平田長子、大谷木豊、貞来。末広田鶴来。明朝西京え帰り候故、暇乞に来。宮比講加入ス。

(十一月) 二十一日 晴天。

此早朝、清泰院さま行紙包、伏田行書状、末広田鶴西京え出立ニ付相託し候。此朝九時頃ヨリ、良姫さま、迹見千よ滝、花蹊、重遠御共ニテ、西新井大師え成らせられ候。野行往来人々参詣ニて、大賑々敷、田舎ニ稀成立派也。上野辺紅葉、所々秋色、満目候也。夕景、御帰殿也。

\*御共(御供)

(十一月) 二十二日 晴。

午後一時より万里小路家え行、稽古して、此時、浜荻典侍さま行御菓子、御文庫共、万里家え相托し候。夫ヨリ仲山家え行、従一位様、御裏方共、御面会ス。仲姫さま稽古ス。五字、帰殿ス。夕、石山家え行、九字帰殿ス。此日、松岡、花野来。松岡、絹本画相頼候。

(十一月) 二十二日 晴。

新嘗祭ニテ生徒半日休也。此日、土御門家ヨリ先主年忌ニテ、ます子さま呼ニ来、午後三時、迎ひの人来、同道ニテ帰殿致され候。五字、帰塾致され候。終日、絹本山水揮毫ス。平田長子、山田富女来ル。父さま、典、愛、菊見物ニ行れ候也。日暮、帰殿也。

(十一月) 二十四日 晴、雨。

終日揮毫。山田富女来。夜、揮毫。

(十一月) 二十五日 晴。

画稽古日。山田富女来。平田長子、大谷木豊、大岸来。此日、松岡、甲州出立之筈、疝ニテ延引のよし申来り候。女教斬帆返し候。夜、揮毫ス。

\*斬帆(軌範)

(十一月) 二十六日 晴。

朝、本郷青木町芝居見物。寿さま成らせられ候。撰齋、千代滝、花蹊御共候也。夕五時、御帰殿也。此日、梅津照子来。女教草序願ニ来り候。飯尾包敬来。土御門家より使来。夜(以下、記述ナシ)

\*御共(御供)

(十一月) 二十七日 晴。

万里家三谷来。午後二字より花蹊万里家へ行。此時、仲姫さまト同道ス。夕五時頃、帰殿ス。長子来、夜七時頃迄。

(十一月) 二十八日 晴。

女教集会。長子、花野、若よ、照子、勇子、伴政年家内聴聞ニ来ル、終日也。此二十七日朝ヨリ、ます姫さままでいたいて引籠候。即三浦ニ相見せ候処、やはりていたいて少々御むしの気もあらせられ候よしにて、早速丸薬、粉薬、水薬等調剤して度々ニ上ケ候。しかしながら御ねつもあらせられ候事故、御大事の御方さまゆへ、此日、土御門家え午後御迎の人御遣しに相成候様御遣し候処、四時頃御人来候得共、ます姫殿は御内にて度々左様の事御坐候故、左候へは食事干テ置候得は自然と全快いたし候故、決而／＼御内にてはあんし不申安心いたし候故、乍御苦勞そちらにて御世話下され候様とて、つれ不被帰候。此日も三浦うかゝひ候。

\*あんし(案じ)

(十一月) 二十九日 小雨。

此日、長州人典道中道連の人来り候。此日午後二時ヨリ駿河台飯尾包敬方え、人屋敷転宅ゆへ暇乞いたし候。夫ヨリ山田へ行、五時帰殿ス。此夜、典、三条西家へ行。

\*道連(みちづれ)

(十一月) 三十日 雨。

画稽古日。山田富女、長子、豊女、大岸来。終日也。長子より、**はすせん**へ到来ス。安井よりシヤボ、わさひ到来。

\*はすせん(蓮煎餅)

(十二月)

十二月一日 晴。

終日揮毫ス。朝、土御門皆川永年来。にしき梅一袋到来ス。又飯尾母娘、猶江悴来。奈良人形到来ス。御殿拝見の人来ル。三浦、増姫さまうかゝひ候。

(十二月) 二日 晴。

浅草薬研堀大蔵省官員田中某、御殿拝見ニ来。平田長子来。花蹊、三時より万里家稽古ニ行、五時過帰殿ス。此時、大坂より荷物来着ス。

(十二月) 三日 晴。

終日揮毫ス。京師岸田清治郎来、勝蔵子書、勝女画ト持参いたし候。桐淵操来ル。羊羹一箱到来ス。清太郎より手拭二筋到来ス。**本町緑町** (空白) 周栄来、女生徒願置候。三浦来、診察ス。増子さま、正冷病ト申居り候。此日午後二字過頃、日輪二ツニ成りて御あらわれニ相成候よし也。人々物之候と申居り候。京師蓮観院さまより十一月二十九日出御文来着ス。当地え御引越申上候得共、御断の御文来り候。

\*本町(本所)

(十二月) 四日 晴。

終日揮毫ス。此日、土御門家え御迎ひの人来られ候よし申遣し候。早速人来り候て、ます姫さま帰らせ候也。此日、中山さまより羊羹一箱到来ス。夕、とみ女来り候。



(十二月) 五日 晴。

此日、生徒放学。太職官鎌足公御神事、八時ヨリ行ル。良子様、御祭主御祝詞御上遊し候。御幣奉ル。夫ヨリ和歌、題冬神祇也。又八雲琴奉ル。夫ヨリ御神事解ル。

\*太職官(大織冠)

(十二月) 六日 小雨、亦晴。

画稽古日。山田富女来。長子、大谷木豊女、大岸来ル。福田政治郎来。認物頼二付、即揮毫ス。田中公義来。娘、外二娘共三人入門願ニ来り候。松岡より使来、明七日甲州え出立いたし候よし申来。よし姫さま御揮毫物十五葉、講中え下され候。

(十二月) 七日 晴。

此日、昼後二字ヨリ万里家え稽古二行。此留主中、飯尾包敬、猶枝連て来ル。いろく馳走携来ル。入塾いたし候。せんへい一袋到来ス。

此朝、松岡講中道同にて暇乞ニ来ル。

\*せんへい(煎餅) \*道同(同道)

(十二月) 八日 晴。

集会日なから、松岡、井上遠足留主中ニテ、梅津其かゝりなから夫婦共不参。夫故、休日ト相定候へとも、長子、花の、勇子、伴家内共、夕景迄雑談ス。此時、大八木高敏、十一日書画会頼来ル。菓子一箱。扇子一本到来ス。此日ヨリ中山仲姫さま入塾致され候。此夜十二時ヨリ大火。夜明テ漸沈火。

\*沈火(鎮火)

(十二月) 九日 晴。

朝ヨリ生徒試筆席書ス。午後二字済。此日、裏松家池田辰雄入門ス。

(十二月) 十日 晴。

麻布小梅有住来、暫居。桐淵操、登女、富女、大岸、長子来。桐淵ヨリ菓子到来ス。終日画稽

古也。山田富女より菓子到来ス。

(十二月) 十一日 晴寒。

此朝、飯尾八蔵入門入塾ス。松魚到来。此日、正親町家ヨリ北村使ニテ春香姫、鍾姫入門願来ル。承知ス。此日、田中島女入門ス。

(十二月) 十二日 晴寒。

正親町春香、鍾両姫、入門入塾ス。大坂座摩渡边来。友田三間来ル。松本風湖画頼みに来り候。父様、典、愛、麻布え行レ候。則小梅方ニテ梅堂人の竹巻借りて帰られ候。良姫さま、蒲生え入門遊し候。夜、地震。

\*松本風湖(松本楓湖)

(十二月) 十三日 晴。

講習日。花野、長子、勇子来。良暫シテ三字頃、梅津来。角子、若よ、外ニ倭舞子供連テ来り候。早々梅津は帰り候。夕景、渡辺外三人居り候。私三字頃ヨリ車ニテ万里家え行、稽古ス。五字、帰殿ス。此夜、池田家内急大病ニテ、父様、私かけ付、かいほうス。十字頃、治ス。

\*かいほう(介抱)

(十二月) 十四日 晴風。

終日画。朝、とみ女来。佐藤来ル。夜、揮画。夜、蓮観院さまヨリ書状来ル。

(十二月) 十五日 晴。

画稽古日。桐淵操、登、山田富、大岸長子、終日稽古ス。花蹊風邪ニテ困ス。此夜、麴町火。

(十二月) 十六日 晴。

花蹊、風邪ニテ終日臥。此日、土御門家より文来。即返事ス。父様、八丁堀大八木高敏え会の挨拶ニ行レ候。夫ヨリ高林二峰え行レ候。

(十二月) 十七日 晴。

風邪ニテ万里小路休。

(十二月) 十八日 晴。

終日揮毫ス。此日、水蛭カケル。

(十二月) 十九日 晴。

終日揮毫ス。遠州屋来ル。夜、熊井来、療治ス。未風不醒。

\* (不(衍) ~ 醒

(十二月) 二十日 晴、大風。

画稽古日ニテ、桐淵操、登、山田富、長子、常盤豊来、終日也。此日、桐淵え絹本牡丹画差出し候。此日、福田政治郎来、額差出し候。此日、梅津来。昨夜、井上帰着のよし也。明廿一日、収会のよし申来り候。上州高崎ヨリ燕子書状来着ス。

(十二月) 二十一日 晴、大風。

此日、女教収会日ニテ、井上、梅津、久保、富田、長子、花野、照子、角子、若よ、勇子、綏子、講義、説教後、酒肴、五時退座ス。夜、雨。

(十二月) 二十二日 晴、風。

朝、万里家令某来。外国留学望次第打合ニ来られ候。此日、千よ滝さま、蒲生、土御門家、梅津え行レ候。夕景、帰殿。此日四時頃、独乙ヨリ御報知有。万里小路家行一通、西四辻家行一通、万長様ヨリ万里家行、又堤家行一通来着。

[図]

右	太子(太子)	兵部大元帥	王名ヲ	ウイルヘルム	兵部大元帥	モルツケ
	独乙王	独乙宰相	右太子	コルン	フロイス宰相	ローン
左	太子(太子)	フロイス宰相	左太子	カル、	独乙宰相	ビスマルク

右三人之大元帥、宰相は皆独乙興復之大ガウケツ也。此三人ニテ独逸在立持スルノ也。然レ共、王モ太子モ中々高麗ニは無御坐候也。

右之御報知、十月九日發、十二月廿二日着。独乙公使館青木周三。

\*ガウケツ(豪傑)

(十二月) 二十三日 晴。

終日揮毫ス。山口人木村某来。長子来。正親町、中山家より使来。此日、飯尾八蔵来。

(十二月) 二十四日 晴。

終日揮毫。松本楓湖来。独乙人ヨリ之十五枚渡ス。岸城花野来。高野雪巖来。伴なか子ヨリ短冊来ル。

\*岸城(木城)

(十二月) 二十五日 晴、暖。

生徒収学、三字退校。画稽古モ同様也。桐淵二人、山田富、長子、大岸長子、終日也。此朝、飯尾母嫁二人連ニテ夫婦喧★(口+花)ニテ泣テ来云々ヲ告、二、三日此方え置呉様申来。母は田町え帰り、嫁栄女は居り候処、夕七ツ時ヨリ愛治郎、飯尾え行、種々説諭ニ及ヒ、嫁届し呉様之事ニ付、夜人力ニテ右栄女帰宅為致候也。

\*喧★(口+花) (喧嘩)

(十二月) 二十六日 晴。

朝十時頃ヨリ三条家え行。公御全快ニテ御出仕被遊候也。暫時シテ万里小路家え行。此日、稽古収也。夫ヨリ三条西家え行、從二位様拜謁、暫時。五時、帰殿。此日ハ掃除也。花蹊、夫ヨリ石山家え行、夜八字帰殿ス。

(十二月) 二十七日 雨。

終日揮毫ス。千よ滝さま誕生日、夜祝。此日、沢從三位百ヶ日引上ニテ父さま行レ候。三条家より御本服御祝御蒸物進せられ候。丸茂文興御使也。

(十二月) 二十八日 曇。

飯尾包敬来。シヤケ到来ス。寄宿生徒稽古収ニテ帰宅ス。福田政治郎来、花山連帰ル。シヤケ

トコンフ到来ス。正親町使来。春香さま、あつ子さま帰られ候。中山家使来。仲姫さま帰られ候。土御門家より鯛到来ス。此日、裏松家池田より申来り候書中に、

文部省官報 海外留学生、今般詮議之次第有之、悉皆帰朝之御沙汰相成申候。尤独乙ニテ北白川宮様ハ自費ニテ御残り、某余も自費ニテ留滞致候者ハ格別、不然者ハ達後六十日以内ニ彼地出立可致之事ニ今日確定致候間、御主人君も自費ニテ滞留御願ナレハ格別、左無クハ来春ハ必然一旦御帰国可有之事と存候。右ハ毎々御尋之次第有之候ニ付、内々御知らせ申上候也。藤田

\*シヤケ(鮭) \*シヤケ(鮭) \*コンフ(昆布) \*某(其) \*留滞(滞留)

(十二月) 二十九日 晴。

池田辰雄来。昼後より宗家え歳末之御礼ニ行、暫シテ帰殿ス。夕景より、よし姫さま、撰齋、千代滝、花蹊、愛治郎、御買物ニ通り辺え行、八字頃帰殿ス。夜十二字過、臥。

(十二月) 三十日 晴。

朝ヨリ掃除ス。川島治郎助、香川是信来ル。正親町家北村来。長子来。京師高林ヨリ郵便来。

(十二月) 三十一日 晴、夜十二時頃より雪。

終日、仕舞事スル。山田富女、歳暮ニ来ル。夜十二字頃、芝大講堂出火、四柱神社共不残焼ル。終夜、雪。